

第3回学識者等会議(H27.8.24)での計画内容に関わる主な意見

分野	主な意見
交通ネットワーク	・ICTで事業を興す際には物流も伴うので、日本海側のミッシングリンクを早くつなげること(三浦座長)
都市	・圏域を牽引する中枢性の議論が弱い。(戸田副座長)
	・ものづくりを支えている中小都市の役割、機能強化についての記載が弱い。(戸田副座長)
産業・経済	・島根、鳥取という日本海地域の経済基盤をどう引き上げていくのかについて示すこと。(佐藤委員) ・産業クラスターをつくる上では工業用地が必要であり、土地利用の規制緩和や税制上の優遇措置が必要。また産業クラスターをつくるときに核となる産業を明確にする必要がある(佐藤委員)
	・美味しいものはあるがブランド化されていない。豊かな資源がありつなげれば何かできると考える。(西河委員)
	・ICTによる変革について前面に押し出した方が良い。(作野委員)
	・中山間地域でIT産業を税制優遇などによる誘致できるようにする。首都機能の分散による役所の分散化が人口問題の解決には必要。(宮原委員)
	・ICTにより中山間地域等でも国際展開は可能であり、大学をうまく活用すべき。(三浦座長)
	・高齢者が担うような高付加価値化の農業振興を。(佐藤委員) ・道の駅等での農産物を販売すれば、地域でお金が回る。日常生活品を取り扱うことで生活支援機能を持たせる。(佐藤委員)
	・海士町等では観光協会が人材派遣により少数多品目労働を実施。中山間地域等でマルチワーカーを応援する仕組みが必要。(山田委員)
・真庭バイオマスがうまくいっているのは事業者の連携が機能しているから。地域のコミュニティがしっかりしていることが中山間地域の多面的機能を維持するベースであり、コミュニティ活動について国から助成する制度が必要。(佐藤委員)	
観光	・道の駅でWifiフリーの環境で、GISを活用した情報提供が必要。GIS上で外国語も含めて魅力を発信する仕組みが必要。(三浦座長)
小さな拠点	・小さな拠点については色々な事例を見てほしい。広島県東広島市の小田地区や、山口県阿武町の宇田郷地区等では廃校舎を活かして地域の人が集まる機能を集約している。(山田委員)
インフラの長寿命化	・社会資本の長寿命化と維持管理についての充実が必要。(戸田副座長)
人材育成	・地方での産業を支える人材確保のため、COC+により学生の地元定着の取り組みを大学・産業界が連携して取り組んでおり、コンパクト+ネットワークも実現性が高まるのではない。(三浦座長)
	・農業での商品開発や販売方法について模索しており、人の意識情勢に取り組む必要がある。(木村委員)
	・若い女性の流出が激しく、女性の定着を真剣に考える必要がある。(三浦座長)
全体コンセプト	・道路を通して何が見えるか、全国の人が行きたくくなるような地域、末端までもが笑顔になるような発展の仕方が分かりやすい言葉であると良い。(さとう委員)
	・多様な価値観を認めあう社会が必要。経済的な集積は山陽が頑張り、山陰は違った価値観で充実させ、役割分担による発展を。(作野委員) ・基本コンセプトの「瀬戸内海から山陰までのフル活用による圏域の発展」についてフル活用というのは右肩上がりの表現、多様性が認められる表現に。(作野委員)